

●図書紹介●

牧昌見・大久保了平・家田哲夫編著

『学校経営の総点検』

B6判 311頁

ぎょうせい
2,400円

わが国の学校は、今日たいへん困難な多くの課題を抱え、その対応に苦慮しているように思われる。すなわち、生徒間のいじめ問題や不登校（登校拒否）問題などの他、情報化・国際化・高齢化の進展に伴う種々の対応などの課題である。たしかに、これらの多くの課題は個々の学校を超えた要因ないし原因によって生起していると考えられるので、国家的な制度・行政レベルでの適切な改革を必要とするところではある。しかしまた、個々の学校においても事実上の教育責任を担う機関として、冷静かつ適切な対応がなされるべきことも否めない。

本書は、このようなたいへんむずかしい時代における学校経営の現状を「総点検」し、着実な改善を推進するための指針を示した書である。その総点検の対象とされた項目は、計25に及んでおり、学校経営の基本的要素の他、「個性重視」「新しい学力観」「体験学習」「情報化対応」「生涯学習」「国際理解」「環境教育」などの教育内容・方法面の重要課題が取り上げられている。また、「いじめ」「不登校・登校拒否」や、「校則・（児童の）権利条約」「情報公開」「学校週5日制」などの今日的課題も含められている。したがって、わが国の学校教育についての今日の重要課題が網羅されており、本書を一読するだけでわが国の学校問題全般について問題状況の冷静な認識と、改善のための指針が得られる内容となっている。

筆者が、とりわけ強調したいと思うのは、前述の25の各項目について、編著者の3氏がそれぞれの持ち味を十分発揮された示唆的な見解が4頁ずつ簡潔に論述されていて読みやすい点である。つまり、各項目の総論を牧昌見氏が担当され、国際的動向や国

の行政施策の骨子を踏まえた明快な指針が論述されている。そして、各論として小学校については家田哲夫氏、中学校については大久保了平氏が執筆されており、それぞれの校種での校長職経験者としての豊かな識見と知恵が生き生きと論述されている。総論を担当された牧氏は、言わずと知れたこの分野の大家であるが、これら3氏によるバランスのとれた、しかも子どもの側に立つ学校教育の実現を強く願う心情に基づく論述は、現職の校長は言うまでもなく、広く教職員一般にとっても示唆される点の多い著書である。

これまで、「学校経営」というと、校長・教頭という管理職や、せいぜい教務主任クラスの教職員の仕事であって、一般教員には関係のないことと受け止められがちであったように思われる。この点においても、本書は「学校経営」のイメージを大きく転換させてくれる好著である、と筆者は考える。本書のなかの牧昌見氏の次の表現に、象徴的である。

「学校経営の仕事は、学級担任の行う学級経営、教科担任の行う教科経営等を含むから、全教職員が関係する。子どもの権利条約はもちろんのこと、学校経営上の配慮としては、4M（人、物、金、組織・運営）の条件を直視して改善に努める必要がある。子どもあつての教師、子どもあつての学校であることを肝に銘じておかなければならない。」(207頁)

(上越教育大学 西 穰司)